



特集 連携する地域と大学
島根大学の地域貢献

【連載】大学最新ニュースTOPICS

島根大学を知って得する利用する 島根大学附属図書館・キャンパスツアー紹介

島根大学 医学部附属病院

あなたの未来が
ここにある

看護師
助産師大募集

皆様のご応募お待ちしております。
職種 看護師 95名・助産師 5名

平成23年
病院が新しく
なります。

私たちは「地域に信頼される質の高い看護」を提供します。

国立大学法人
島根大学 医学部附属病院

◎看護部ホームページ / <http://www.suh-nurse.jp/>

島根大学看護部 検索

携帯はコチラから

広報

Shimadai

[しまだい]

回覧

島根大学広報誌
2010.08
Vol.6



Shimadai

島根大学広報誌

2010年8月発行

編集・発行 / 島根大学広報・広聴委員会

〒690-8504

松江市南川津町1060

TEL (0852) 3246003

FAX (0852) 3246019

ホームページ

http://www.shimane-u.ac.jp

連携する地域と大学

島根大学の地域貢献

【連載】大学最新ニュースTOPICS

島根大学を知って得する利用する 島根大学附属図書館・キャンパスツアー紹介

特集

島根大学 医学部附属病院

あなたの未来が
ここにある

看護師
助産師大募集

皆様のご応募お待ちしております。

職種 看護師 95名・助産師 5名

私たちは「地域に信頼される質の高い看護」を提供します。

国立大学法人
島根大学 医学部附属病院

◎看護部ホームページ / <http://www.suh-nurse.jp/>

島根大学看護部 検索

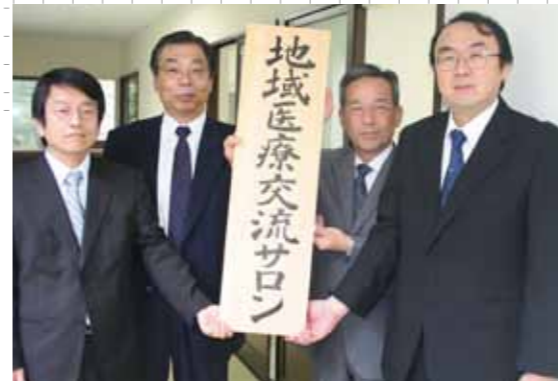
携帯はコチラから

平成23年
病院が新しく
なります。

QRコード

携帯はコチラから

1 医学部に地域医療への対応を図るサロン開設



開設式で「地域医療交流サロン」の看板を上掲しました。今後は、地域医療を志す学生と市町村および医療機関との交流会等を開催していきます。

島根県が抱えている地域医療問題に対応するため「島根県地域医療再生計画」の一環として、平成22年度から島根県の寄附を受け、島根大学医学部に地域医療支援学講座を設置しました。それに伴い、地域枠推薦学生等と市町村や医療機関が交流の場として、6月30日に「地域医療交流サロン」を開設しました。開設式では、山本学長から「学生と地域医療に関わっている方々の相互の情報交換の場となり、島根の地域医療の中核として安心して医療を受けられる状態になるよう努力していきたい」と挨拶がありました。

3 島根大学旧奥谷宿舎で催し物・イベントを募集

島根大学ミュージアムでは、「島根大学旧奥谷宿舎」を会場とした作品展、ミニ教室、ミニ音楽会などの催し物やイベントの開催を募集しています。「島根大学旧奥谷宿舎」は、大正13年に旧制松江高等学校のドイッ人、アメリカ人教師向けに建造された木造2階建ての宿舎です。島根大学に引き継がれた後、平成19年に、国の登録有形文化財に登録されました。現在は、市民講座や展示、

ワークショップ、研究発表など多目的に利用されています。催し物等で利用可能な時間は、土曜日、日曜日、祝日の午前10時から午後5時まで。ただし、希望により平日の利用も対応できます。利用可能な部屋は、1階の多目的室、2階の多目的室①ならびに②です。ノートパソコン、大型テレビ、ホワイトボード、椅子、ミニテーブル、展示パネルボードなどの設備の利用ができます。利用の申込みは、使用日の一週間前までに願書に記入の上、島根大学ミュージアムまたは島根大学旧奥谷宿舎の管理人まで提出して下さい。利用についての詳細は、島根大学ミュージアムまでお問い合わせ下さい。学内外のサークル、団体の活動などに、ぜひご利用下さい。



当時の最先端様式だった三角屋根が特徴的です。内部は一部改装されていますが、建造当初の状況を留めている部分もあります。

問 島根大学ミュージアム
0852-32-6496※TEL・FAX 共通
Eメール museum@riko.shimane-u.ac.jp



6月27日に開催された「文楽の世界を知る会」での、桐竹紋師匠による文楽に関する解説の様様。

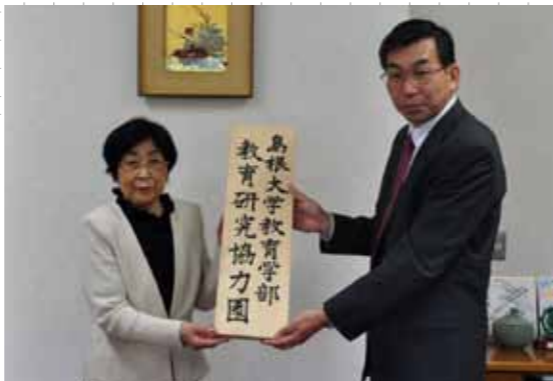
2 川津小学校の児童が松江キャンパスを探索



教育学部環境寺子屋（環境・理科教育推進室）にて理科実験・工作をしました。子ども達は作った紙コップを手に、今回の「探検」を終えました。

松江市立川津小学校の3年生33名が、6月14日と7月2日に松江キャンパスへ「探検」に訪れました。これは小学校での「総合的な学習の時間」の活動の一環として行われました。1日目は大学ホールや附属図書館、生物資源科学部の屋上緑化などを見学しました。2日目は運動施設やミュージアム本館展示室、山陰地域資料展示室を訪れました。児童たちは、隠岐馬の骨格を見学し、「小さいね」「馬に見えないね」と興味津々の様子でした。最後の「環境寺子屋」での理科実験・工作では、首はなぜ聞こえるのかを学びました。

4 教育学部で学外での幼稚園実習を開始



右は看板を贈呈する伊藤教育学部部長。左は坪内理事長。9月には、公立の幼稚園11施設にて3週間の実習の実施を予定しています。

教育学部では、平成22年度から幼稚園教員養成のための教育実習を、学外の幼稚園で実施しています。従来は附属幼稚園で実施していましたが、この実習の導入によって、学生はより現実的に幼稚園や幼児教育の現状理解が可能になります。5月24日に育英幼稚園、育英北幼稚園で実習があり、伊藤豊彦学部長から両幼稚園の理事長へ「教育研究協力園」の看板を贈呈しました。学外での実習は、附属学校園を持つ教員養成学部では全国的に珍しく、また、教育学部と地域の教育機関の連携は一つのモデルケースとなっています。

5 第30回島根大学サイエンスカフェを開催しました



2009年には全国22万人の赤ちゃんがタンデムマスククリーニングのパイロット研究に参加し、島根県は今年4月から全国に先駆けて全域での実施を開始しています。

7月23日に第30回島根大学サイエンスカフェ「子どもの病気は治療よりも予防」…今春から島根県で始まった障害発生活性防事業「赤ちゃんスクリーニング」の拡大を、医学部小児科学講座の山口清次教授を講師に開催しました。日本では昭和52年以降すべての赤ちゃんを対象に血液検査し、生まれつきの代謝異常を症状が出る前に発見し、障害発生を防ぐ新生児マススクリーニング事業が行われています。その中で、山口教授は新しく開発されたタンデムマスクという機器を使った検査法の優れた効果と導入状況、課題について講演を行いました。

Shimadai
2010.08/Vol.6/CONTENTS
題字：山本廣基学長
(毎日書道展審査委員)

トピックス	02
公開講座・公開授業のスケジュール	08
特集 島根大学の地域貢献	09
地域に貢献する事業紹介	10
^{コラム} 島根大学附属図書館ご利用案内	15
注目されています～地域に関わる研究紹介～	16
^{コラム} 島根大学キャンパスツアー	19
サークル紹介	20
同窓会連合会から	22
島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント	23

6 瀬戸内・山陰の知産品ガイドブック発行



ジャンルを「食品」「生活」「工業」「医療・医療・介護」「その他」の5つに分け、産学官が共同開発し製品化したものを紹介しています。

中国地域産学官連携商品集「瀬戸内・山陰の知産品ガイドブック」が発行されました。このガイドブックは、中国地域産学官コラボレーションセンターから発行された冊子です。中国5県の民間企業が大学・高専等の公設試験研究機関と連携し、新製品開発や新事業創出に取り組み、生まれた商品を掲載しており、島根大学との連携で生まれた商品も掲載されています。なお、このガイドブックは、中国地域において産学官の連携が本格化した平成14年度以降に商品化・販売しているものを中心に掲載しています。

7 教育学部美術教育専攻が夏休みアート体験を開催



ワークショップでは、光と影によって生まれる濃淡やコントラストを利用した写真を作ります。自分だけのオリジナル作品を作ることができます。

8月12日から15日にわたり、島根県立美術館で、夏休みアート体験「光の写真隊」を開催しました。これは、島根県立美術館と教育学部美術

教育専攻との連携事業で行うワークショップで、今年で10年目の開催となります。美術教育専攻の3年生が授業で企画し、教材の試作・開発、チラシの制作・配付、本番の運営・進行までを体験学習として実施。会場は、島根県立美術館アート・スタジオで、先着16名、参加費は無料で1日3回の開催を行いました。

10 地域イノベーション創出2010 in ひろしまを開催



産学官連携功労者表彰にて、功労賞を受賞しました。島根大学は、平成17年、18年、20年にも受賞歴があります。

6月7・8日の2日間、中国地域産学官コラボレーション会議と中国地域産業クラスターフォーラムの主催で、「産学官連携」をキーワードとした講演会・事例発表・交流会など、中国地域におけるイノベーションの創出に向けて議論を深めるシンポジウム「地域イノベーション創出2010 in ひろしま」と「真ん中」中国地域を元気発信地へ」が開催されました。本学からは、

山本学長、柴田副学長、総合理工学部藤田教授、総合理工学部・産学連携センター長大庭教授、産学連携センター北村教授、学術国際部研究協力課戸課長が参加しました。中国地域の国立大学法人5大学学長によるパネルディスカッションでは、山本学長がパネラーとなり、大学連携について議論しました。その中で、産学官連携分野の連携だけでなく、大学院との連携など必要であるとの意見が出されました。また、中国地域産学官連携功労者表彰の表彰式では、藤田教授のグループが、古河機械金属株式会社、日本バイオニクス株式会社、JSTイノベーションプラザ広島と島根大学とが連携・実用化した事例「酸化亜鉛系薄膜成長用MOCVD装置の開発」において、共同研究・技術移転功労賞を受賞しました。

8 行灯や竹灯籠を灯した春燈祭を開催



学生による企画・運営で、行灯や竹灯籠が正門からキャンパスにかけて並べられました。ロウソクの柔らかな明かりが幻想的な空間を演出しました。

4月24・25日と28・29日の夕方から、新入生歓迎イベントとして「春燈祭（しゅんとうさい）」を開催し、キャンパスに250個の行灯と80個の竹灯籠が灯されました。28・29日は風や雨による中断や会場変更を余儀なくされましたが、体験製作や武者行列、弾き語りサークルなどによるステージ演奏、夜のキャンパスツアーなどが行われ、連日訪れる地域の方もいました。「考えていたよりもずっときれいだった」「もっと広くPRしてもよいのでは」などの声がかれました。

9 子ども達に人気の冒険遊び場を構内で開設



春休みの2日間、大学本部棟横の草地スペースに開設しました。当日は、子どもと一緒に運動している島根大学教職員の姿も見られました。

3月に冒険遊び場「レーパーク」を大学構内で開設しました。冒険遊び場は、島根大学と島根県立短期大学の学生が、約10年前に立ち上げたサークル「プレレまっつえキッズ」により企画・実施されました。全国に250近い冒険遊び場がある中、学生主体で運営しているのはこのだけの特徴です。冒険遊び場は、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに子ども自身が遊びを作っていく遊び場です。当日は100名近いお子孙が来場し、太い竹で作った巨大ジャンブルジムや焚き火のべっこう船作りなどをして遊びました。

11 「指導教員と保護者との個別面談」を実施しました



学生を含めた3者面談も行われ、この面談による保護者との情報交換は、指導内容の充実を図る一助となることから、今後も継続して行います。

法文学部と総合理工学部は、7月10日に松江市内で、指導教員と保護者との個別面談を実施しました。面談には、全国から両学部合わせて613家族、約900名が参加し、学業成績、学生生活、就職などについて、140名の教員との情報交換が行われました。この催しは、両学部の前身である文理学部の時代から40年にわたり実施。国立大学では非常に珍しい企画で、「先生から見た子供の印象等を聞くことができ、今までと違った一面を知ることができた」という感想が寄せられるなど、参加者から好評を得ています。

12 センターフェスティバル春の農場まつりを開催



晴天のもと咲き誇る桜を見に訪れた人々で、会場は賑わいました。センター所有の農場では、約145種類、成木約250本の桜を植栽しています。

生物資源科学部附属生物資源教育研究センターでは、4月17日に、「センターフェスティバル 春の農場まつり」を開催しました。今年は桜の開花が例年より遅く、御衣黄（ぎよき）や楊貴妃（ようきひ）は1分咲き程度でしたが、中には、永源寺（えいげんじ）など満開の品種もあり、花見を楽しむため、約1200人が農場を訪れました。会場は、学生による茶席のほか、農場生産品の販売所や、ベゴマなどの昔ながらの遊びを体験できるコーナーもありました。親子連れなど、多くの人が春の農場を満喫しました。

13 出雲市と包括的連携に関する協定を締結



右より握手を交わす山本学長と長岡市長。この締結により、本学の包括的連携協定機関は、自治体6、国1、企業1の合計8機関となりました。

8月4日出雲市役所において、山本廣基学長・長岡秀人出雲市長のほか関係者が出席して、本学と出雲市との包括的連携に関する協定の締結のための調印式を行いました。出雲市とはこれまで、地域医療共同研究「乙立里家診療所における地域医療臨床教育研究」や、出雲市の寄付による「腫瘍臨床研究部門」設置のほか、遺跡調査事業や学生の就職支援など連携協力を進めてきました。今回の包括的連携協定の締結により、地域社会の発展や人材育成に寄与し、将来に向けた新たな取組を行ない、一層相互の連携・協力を推進します。

14 邑南町で中学生を対象に小林病院長が講演



講演をする小林病院長。地元中学生へ向けて、地域医療に興味・関心を持ってもらうよう訴えかけました。

6月4日、地域医療を支える人材を育てるため、邑南町の主催で町内の中学生3年生約100名を対象にした講座「子ども夢ひびきあい塾」が開かれ、本学の小林祥泰病院長が講演を行いました。小林病院長は「地域医療を知りたい地元学生にこそ医学部に来てほしい」とエールを送り、センター試験や、面接を主体にした地域枠推薦制度など大学入試に関する説明をしました。さらに、邑南町出身の医学部学生や病院勤務の看護師など、参加した中学生にとって身近な先輩の存在を紹介しながら地域医療の道を志す心構えを説明しました。

16 来春より総合理工学部にて「理工特別コース」を新設



充実した学習研究室を準備するほか、メンター制度、学習ポートフォリオを活用し、効果的な学習・学修サポートを行います。

問 総合理工学部ホームページ <http://shimane-riko.jp/>

来春より、総合理工学部では、科学技術の発展をリードする優秀な研究者・技術者を養成する「理工特別コース」を新たに設置します。これは、文部科学省が公募した「理数学生支援プロジェクト」に、本学が応募した「アクティブ・ラーニングを基調とした理工大好き学生の応援プログラム」「理工特別コース」の設置が、5月26日に採択されたことにより実現しました。新設される「理工特別コース」では、理工系分野に強い興味・意欲、能力を持つ学生を受け入れ、最先端施設への訪問や一流研究者による講義など、1・2年次で連続したアクティブ・ラーニングを実施。3年次で早期に研究室へ配属し、研究面への興味・意欲、国際的視野を育みます。また、教員の指導により現代的・学際的課題に対応できる、個人キャリアを可能にすることで、研究者としての視野の拡大と主体性を養います。さらに、優秀な学生は、最短3年での早期卒業、大学院博士前期課程への飛び級入学などが可能となります。平成23年度には、総合理工学部の各学科の入学者から15名程度を選抜し、プロジェクトを開始します。詳細は、募集要項、総合理工学部ホームページをご覧ください。

15 大学開放事業による三瓶演習林一般開放を実施



三瓶演習林一般開放の様子。島根大学では、三瓶演習林のほか、匹見演習林、松江試験地の2つの演習林を所有しています。

問 島根大学生物資源科学部 生物資源教育センター-森林科学部門 ホームページ <http://ufsu.life.shimane-u.ac.jp/ercbr-forest/index.html>

高根大学生物資源科学部附属生物資源教育センター森林科学部門（演習林）では、4月23日に、三瓶演習林一般開放を実施しました。これは、島根大学が行う大学開放事業の一環で行われたものです。当日、参加者は、大田市三瓶町にある島根大学三瓶演習林の事務所兼宿泊所に集合し、三瓶演習林獅子谷団地へ移動しました。演習林内では、林道を歩きながら、山下准教授の案内により、演習林で見られる植物の特徴について説明を受けたり、道沿いの樹木や草花を観察したりしました。樹木の葉は開き始めたばかりでしたが、普段はあまり気を留めて見ることがない、芽吹いたばかりの樹木の姿を見ることができました。また、スミレ類がたくさん咲いており、日本を代表する「タチボススミレ」をはじめ、数種類のスミレを観察することもできました。歩いた後は、演習林内の広場でお湯を沸かし、お茶を飲みながら、参加者のみなさんの感想や次回への要望などの意見交換をし、有意義な時間を過ごしました。この演習林の一般開放について、詳しくは島根大学生物資源科学部生物資源教育センター-森林科学部門ホームページをご覧ください。

17 フィールドワークで学ぶ 教養教育総合科目を実施



青木遺跡での現地解説の様子。四隅がヒトデのように飛び出た形が特徴的な「四隅突出墳丘墓」と、建物の遺構を観察しました。

6月19日、教養教育総合科目「フィールドで学ぶ『斐伊川百科』」の巡見を実施しました。この授業は、受講者が共通講義を受けた上で、「自然環境」「産業と暮らし」「歴史と文化」の3分野に分かれ、講義とフィールドワークで学ぶという特徴があります。当日は、出雲市平田町・愛宕山公園の「日清戦争従軍記念碑」・平田木綿街道、青木遺跡、古代出雲歴史博物館などを巡りました。学生は、教室での講義から学んだことに加え、現地で解説を聴くことで、遺跡等についての理解を具体的に確かなものにしていました。

18 中国地区の国立大学長が 公的投資拡充を共同で公表



岡山市にて、中国5県の大学長が会見を開き、共同で声明を発表しました。今後は、5大学がある自治体首長にも説明し、理解を求めていきます。

7月9日、中国の5国立大学長が、平成22年度概算要求で「国立大学法人運営費交付金」を削減しないよう求める共同声明を発表しました。声明では、同交付金が削減された場合、交付金を含む政策的経費が単年度だけでも927億円となり、過去6年間に削減された830億円を上回ると試算を公表。この大規模な削減により、地域の人材育成や医療の提供、地元企業への研究成果の還元など、地方国立大学の使命を果たすための大学運営が立ち行かなくなるとし、削減対象とせず長期的観点から予算配分する必要性を訴えました。

特集

連携する地域と大学

島根大学の地域貢献

島根大学は様々な研究成果を通じての地域貢献はもとより、多様な事業を展開し地域の皆様に貢献し続ける大学を目指しています。そこで今回は、特集として本学が地域の皆様と連携して行っている事業や地域に関する研究をご紹介します。

CONTENTS

地域に貢献する事業紹介	10
☐コラム 島根大学附属図書館ご利用案内	15
注目されています～地域に関わる研究紹介～	16
☐コラム 島根大学キャンパスツアー	19

あ な た も 受 講 し て み ま せ ん か ？

平成 22 年度 後期 公開講座・公開授業 Schedule

公開講座	講座名	講習料	対象者	募集人数	時期	回数	総時間
	硬式テニス教室 初級・中級・上級II	7,000	市民一般(テニス実技初・中・上級者)	30	9/29～12/1(19:00～21:00)	10	20
	こども硬式テニス教室2A 小学校低学年対象	3,200	小学校低学年(初めて、初心、初級)	30	10/2～11/20(9:15～10:15)	8	8
	こども硬式テニス教室2B 小学校高学年対象	4,600	小学校高学年(初めて、初心、初級)	30	10/2～11/20(10:30～12:00)	8	12
	版画講座	3,200	市民一般	7	10/21～11/11(10:00～12:00)	4	8
	金曜日のドイツ語	5,000	市民一般	10	11/5～1/28(18:00～19:00)	10	10
	郷土の作物と触れ合いながら豊かな年越しを!	3,200	市民一般	10	10/7～12/16(13:30～15:30)	4	8
	使ってみよう!ワープロソフト・ワード	3,200	市民一般	20	2/21～2/24(13:30～15:30)	4	8
	上級者へステップアップ!ワープロソフト・ワード	3,200	市民一般	20	2/28～3/3(13:30～15:30)	4	8
	仕事で使える「エクセル」上級スキルをマスターする	7,800	市民一般	20	10/7～12/21(18:30～20:30)	12	24
	あなたの健康を考える	無料	市民一般、高校生	20	11/13、12/11(10:30～12:00、13:00～14:00)	2	2.5
	市民公開講座「最も多い眼の病気～緑内障と白内障」	無料	市民一般	150	2/5(13:00～16:00)	1	3
	基礎医学から未来の科学的健康をめざして：体内時計の謎	無料	市民一般、高校生、行政職員・教職員、民間技術者	30	3/19(10:00～12:00)	1	2
	「国語」の新視点	無料	市民一般、高校生	20	10/22～12/3(18:00～19:30)	7	10.5
	金属素材による工芸品制作体験	無料	市民一般	10	3/5(9:00～17:00)	1	7
	松江地域文化を語る	無料	市民一般	30	11/20・11/27(13:00～15:00)	2	4
	第6回島根まるごとミュージアム体験ツアー	無料	市民一般、高校生	25	11/13(8:30～17:30)	1	9

【受付期間等】平成22年9月1日(水)午前10時から、各講座開講日の1週間前まで受付いたします。申込受付は先着順で行い定員になり次第締め切ります。
【受講料】講座によって有料、無料があります。

公開授業(教養教育科目)	科目名	曜日	時限	授業形態	募集人数
	中国文学における風土と人間	月	1・2	講義	10
	現代経済へのアプローチ	月	5・6	講義	5
	考古学からみた古代山陰の世界	火	1・2	講義	10
	遺伝子を考える	火	3・4	セミナー	5
	生命科学の歴史と倫理	火	3・4	講義	10
	汽水域の科学(応用編)	火	7・8	講義	10
	環境問題通論B	火	9・10	講義・実習	10
	動物の世界	木	3・4	講義	若干名
	プレートテクトニクス	木	7・8	講義	10
	遺伝と生物学	金	3・4	講義	15
	島大ミュージアム学	金	3・4	講義	10
	技術と社会	金	5・6	講義	10
	特別講義(Rubyプログラミング)	金	7・8	実習	5
	森林の生態と環境保全	金	7・8	講義	若干名
	情報科学演習B6	金	9・10	演習	5
	考古学概論II	月	5・6	講義	10
	考古学特論C	月	7・8	講義	10
	情報経済論	月	7・8	講義	5
	地域産業論II	月	7・8	講義	5

公開授業(専門教育科目)	科目名	曜日	時限	授業形態	募集人数
	東洋史概説B	月	7・8	講義	10
	生産技術基礎実習II	月	7～9	実習	5
	木によるものづくり実習II	月	9・10	実習	5
	財政学II	火	1・2	講義	5
	労働法II	火	3・4	講義	10
	地方財政論	火	3・4	講義	5
	生産技術基礎実習IV	火	7～9	実習	5
	日本史特論A	水	1・2	講義	10
	アメリカ文学応用演習II	水	3・4	演習	5
	自然地理学II	木	1・2	講義	5
	西洋史特論B	木	3・4	講義	10
	環境経済論II	木	5・6	講義	若干名
	風土環境論	木	7・8	講義	10
	金融論II	木	7・8	講義	6
	木と木工の知識	木	9・10	講義	5
	環境土壌学II	金	1・2	講義	若干名
	経済学概論	金	3・4	講義	5
	日本文学史I～王朝物語の世界～前半～	金	5・6	講義	10

【目的】島根大学で通常、学生を対象に開講されている正規授業の一部を公開し、皆様の生涯学習に役立てていただくというものです。
【受付期間等】平成22年9月1日(水)午前10時から平成22年9月15日(水)12時まで受付いたします。申込受付は先着順で行い定員になり次第締め切ります。
【受講料】一科目6,500円です。

申込方法 郵送、FAX、Eメール、生涯学習教育研究センターホームページ上の申込フォーム、窓口に参加のいずれかの方法で申し込んでください。
【受付時間】10時～12時、13時～16時(土、日、祝祭日を除く)【受付場所】島根大学生涯学習教育研究センター
【問い合わせ先】島根大学生涯学習教育研究センター TEL:0852-32-6408 FAX:0852-32-6098 E-mail:ercll@edu.shimane-u.ac.jp <http://www.ercll.shimane-u.ac.jp/>

法文学部

文楽(人形浄瑠璃)の理解を深め 地域に古典を楽しむ下地づくり

— 文楽の世界を知る会 —

古典芸能「文楽」に親しむ「文楽の世界を知る会」が地域住民の方々と交えて開催。企画者・田中則雄教授に文楽をテーマにした活動をお聞きました。

現代人にもよくわかる 色褪せない文楽の世界

6月27日、文楽(人形浄瑠璃)界の重鎮、桐竹紋壽師匠を招いた講演会、「文楽の世界を知る会」が島根大学内で開かれ、学生とともに、たくさんの方々のみなさんが本場関西の古典芸能に親しまれました。

この講演会を企画した、法文学部(国文学研究室)の田中則雄教授は、文楽を自身の専攻される近世(江戸期)文学を理解する根幹として捉え、学生たちとともに、長きにわたり文楽を研究してこられました。

「人間の感情や心理が表現される文楽は、文献として読むより、劇となるこ

とで、より形となって見えてくるのです。そこが現代の人間にもよく分かる、決して古くない文学だと言えます」と語ります。こうした文楽の面白さを市民に触れてもらおうと開かれたのが「文楽の世界を知る会」。講演会では、紋壽師匠の実演と講演。そして紋壽師匠の指導による、学生たちの人形遣い体験がおこなわれました。

本場関西へのツアーを通じ 文楽を楽しむ地域の土台作り

こうした活動は平成18年から市民向

け文楽鑑賞ツアーとして本格的に始動。本年7月30日にも国立文楽劇場へのツアー(2回目)がおこなわれました。

「都市部との文化的な格差を縮めていきたい。文楽のファンが増えれば、今回のように山陰に招く機会も増えるでしょうが、まずは国立文楽劇場(大阪市)などに足を運び、本場の文楽に触れていただきたい。そうした下地づくりのお手伝いをこれからもやっていきますね。」



6月27日に開催された「文楽の世界を知る会」の一コマ。当日は100人を超える学生、教職員、地域の方々と賑わいました。生の古典芸能に触れられる貴重な時間となりました。



毎年、田中教授のゼミで行われる国立文楽劇場への訪問。舞台の稽古にくわえ、本番前の貴重な時間に解説を聞いたり、学生の研究にも大きく寄与しています。



「文楽の世界は、時代こそ違えど現代でも起こりうる状況や話題をテーマとしています。これに触れることで、豊かな人間性や視点が広がると思います」と語る田中教授。



自らの力で地域活性化を図る松平村塾のメンバーとゼミ生をはじめとした大学の学生は共同で地域への活動を行っています。写真は地域のお祭りの一コマ。



旧児童館の建物を利用した「松平ラボ」サテライト・ラボトリ(研究室)としてフィールドワークの基地。地域の方々と交流の拠点となっています。



「ありのままの田舎であり続けるためには、最低限の再生産を行うとともに、都市部と戦略的互惠関係を持つ必要があります。」と語る作野准教授。

地域グループとの出会いで 誕生した拠点「松平ラボ」

過疎化と高齢化の進む地域で住民グループとともに地域の持続性を探る、作野准教授。

その舞台となるのが、江津市の松平地区。ここに地域と共同の活動拠点「松平ラボ」を設置し、さまざまな課題に取り組まれています。

「平成18年に江津市から空き家調査の依頼を受け、その調査の過程で同地区の地域づくり組織「松平村塾」の皆さんに出会ったことがきっかけで始まった活動です。」(作野准教授)

これまで松平村塾が事務所として使用していた建物を平成21年7月に「松

平ラボ」とし、本格的な活動が始まりました。

土地のよさをそのままに 独自の取り組みが次々と

松平ラボでのテーマは「ありのままの地域づくり」。

「何もなかったら人がいなくなります。しかし、無理なことをして地域のよさを壊したくはありません。その土地のありのままを尊重し、最低限の生産を促しながら元気にしていこうという取り組みです。」(作野准教授)

これを機に、新しい動きが次々と生まれました。古民家を使ったゼミ合宿で学生と地域が強く繋がったことや、特定の会社と特定の地域を結ぶ「社一村交流」では、大阪の化粧品会社を招いて農作業を体験してもらったり、地域に興味を持った広島市内のサーファーが農作業を行う拠点づくり活動など、多岐にわたる取り組みに広がっています。

また今夏には、地域と学生が共同で子どもたちを招待する「夏休み子どもスクール」も開催。活動もますます意欲的に盛り上がっています。

教育学部

地元と共同で取り組む ありのままの地域づくり

— 松平ラボ —

江津市内の空き家調査を機に松平地区[※]に誕生した「松平ラボ」。過疎化と高齢化が進むこの土地で、地域の持続可能性を探る、教育学部(人文地理学)の作野准教授にお話をお聞きました。

※江津市の中山間地域に位置する松川町と川平町を合わせた地域の総称

総合理工学部

楽しい工作を通じて 初歩の工学に触れる「理科教室」

－理科教室－

父兄として参加した小学校のイベントをきっかけに、子どもたちに工作を通じて工学の面白さを伝えている、総合理工学部(電子制御システム工学科)の縄手雅彦教授に、主催される「理科教室」のお話をうかがってきました。

手軽に遊べる理科実験が 次第に本格的な工作教室へ

松江市立川津小学校の父兄が企画し、毎年秋におこなわれる行事「ファミリーフエスタ」の中で、理科教室を開催し、子どもたちに工学の面白さを伝えている縄手教授。

「PTAとしてファミリーフエスタに関わった3年前から始めました。我が子は、この春でみんな小学校を卒業しましたが、理科教室はそのまま継続することになり、どんどん本格的なものになっていきました。」(縄手教授)

縄手教授のおっしゃるとおり、一回目の磁石を使ったおもちゃ作りといった手軽なものから、「財団法人電子情報

通信学会中国支部」の後援をうけることになった二回目以降は、学会から資金援助を受けて購入した工作キットを使った、ゲルマニウムラジオ製作。そして去年おこなわれた三回目の教室では、発光ダイオードを使ったパトカー製作と、本格的な内容に取り組んでおられます。

工学の面白さを親子に伝え 理工学への発展も視野に

「難しいハンダ付けは研究室の学生に協力してもらったりと、理工学の大

学生が小学生と触れあうコミュニケーションの場にもなっています。」(縄手教授)

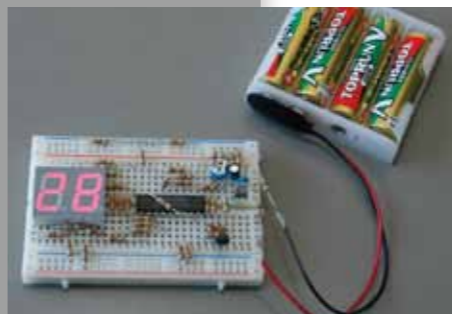
一緒に参加している保護者には、教室で子どもたちが体験する技術が、どういう分野に活かされるか?といった、将来の進路面のアドバースもこなっているそうです。

また、縄手教授が別で取り組んでおられる「障害児支援活動の一環として、一般児童の工作能力をモニタリングするなど、多方面にこの教室が活かされています。」

※この理科教室の他にも、肢体に不自由を抱える障害児童のための支援活動として、工学的なサポート(パソコンを使いやすくするための、ハード&ソフト両面の研究、開発など)に取り組んでおられます。



昨年開催された「理科教室」の発光ダイオードを使ったパトカー製作の様子。親子で一緒に工作に取り組む姿が、参加者の熱意を感じさせてくれます。



今年の「理科教室」で使う予定の温度計の基盤。「ブレッドボード」と呼ばれ、設計図を見ながら基盤に書かれた番号とアルファベットに部品を差し込んでいくと完成。



「親御さんには工学を学ぶと、将来お子さんがどのような職業・分野で活躍できるかなどを伝え、少しでも工学に関心をもって頂けるよう心がけています」と語る縄手教授。



農業で繋がっていく 多様な活動に成長

生物資源科学部の学舎周囲に設けられたミニ植物園「みのりの小道」。学生と市民が共同で取り組む、学内の緑化整備活動(大学開放事業)として平成16年にスタートし、今では学外での農作業など、幅広く植物や農業に親しむ活動へと成長しています。

月一回の定期活動は、大学内での作業を軸に、生物資源科学部が進めている教育・研究の紹介、さらに参加者の交流が主な内容。交流も大学側が一方的に情報を提供するのではなく、市民参加者からの情報提供が多いのも特徴で、他の自然保護や援農活動に参加し



生物資源科学部の教員が研究対象としている植物等を緑化素材としてとりいれている「みのりの小道」。そのため「ミニ学術植物園」としての側面もあります。



「みのりの小道」活動中の様子。大学内の植栽や除草などの作業だけでなく、教員や参加者が各々研究や活動に関する情報を持ち寄り、熱心に耳を傾けます。



「興味のある方は気軽に参加して頂けたらと思います。またこの活動を発展させた冒険遊び場(プレーパーク)なども行っています」と語る山岸准教授。

た方からのレポートなど、学生たちもさまざまな情報を市民の方々から受け取っています。

援農をキーワードに 生産者と消費者の橋渡し

こうした繋がりは、有機農家への援農活動等にも発展しており、現在は農業を営む参加者から援農用区画を提供してもらい、栽培から加工品作りといった活動も活発におこなわれています。

「みのりの小道」のリーダーを務める生物資源科学部(生産技術管理学講座)

の山岸主門准教授は、「今ではほとんど作られていない在来種「津田ナス」の復活を目指し、参加者がそれぞれの家庭で栽培するなど、他にも多様な活動に広がっています。こうした活動を「環境農業」の島根県内への普及の一助として長期的に捉え、やがては、生産者との橋渡し(連携)の仕組みに繋がっていき

たい。「みのりの小道」がその一歩なんです」とおっしゃいます。

大学にお越しの際は、ぜひ「みのりの小道」に足を運んで、その成果を確かめてみてください。

生物資源科学部

学内の緑化整備活動から 環境農業を支援する取り組みへ

－みのりの小道－

学内の緑化整備活動として始まった市民参加の「みのりの小道」。今では学外にまで飛び出した農業支援活動の内容をリーダーの山岸主門准教授にお聞きしました。

医学部

地域と学生の接点を強化 交流から生まれる地域医療の未来

— 地域医療交流サロン —

各市町村推薦による「地域推薦枠学生」制度をより活性化させる取り組み「地域医療交流サロン」。サロンの役割から今後など、発案者の谷口栄作教授にお聞きしました。

制度だけの仕組みに終止符 コミュニケーションを活性化

本年度より、地域医療と医学部学生を繋ぐ交流拠点として、関係者から注目を集める「地域医療交流サロン」が出雲キャンパスに開設されました。

このサロンは、各市町村から推薦で入学する「地域推薦枠学生」と推薦した地域とのコミュニケーションを強化しようとして、医学部（地域医療支援学講座）の谷口教授が働きかけて実現したものです。

「5年前から始まっている制度にも関わらず、学生にとって、推薦される地域と接点がほとんどない事に疑問を感じたのがきっかけでした。そこで、推薦

学生たちの基地を作ろうと考えました。学生に地元や地域というものを身近に感じてもらうためにも、大きな役割を果たすものだと思います」（谷口教授）。

地域医療発展のため より多機能なサロンへ

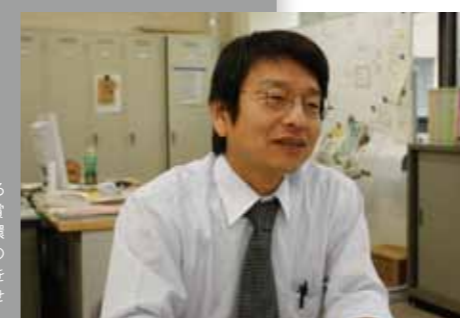
交流の場というだけでなく、地域情報拠点としての機能も充実させ、今後は推薦学生以外の地域医療に興味を持つ学生たちにも広く門戸を開いていくそうです。



医学部第4共同研究棟に開設された「地域医療交流サロン」。サロンは、県内各市町村や医療機関の関係者と学生との交流事業をはじめ、多様な用途に気軽に利用できます。



サロン内には、県内各市町村や医療機関の広報誌などを置く情報コーナーを設置。学生が自由に閲覧することで、地域の実情や地域医療に関わる情報収集ができます。



「勉強会等の開催はもちろん、医療に関する映画鑑賞会など気軽に利用できる環境作りにより地域医療のアンテナショップの機能を強化したい。」と意欲をみせる谷口教授。

大学内に設置されたことで、各地域の関係者も学生たちと無理なく自然に交流ができるという好評で、6月8日の邑智町との交流を皮切りに、翌7月の浜田市との交流では、推薦学生だけでなく、浜田出身の学生も参加するなど、早くもサロンが機能し始めているようです。

（問い合わせ先）
地域医療支援学講座 TEL0853-20-2558 FAX0853-20-2563
E-mail career@med.shimane-u.ac.jp

information

島根大学附属図書館本館ご利用案内

当館で所蔵する豊富な専門資料を、調査、研究、学習のために図書館資料を利用する場合、どなたでも閲覧することができます。



島根大学附属図書館は、大学生や大学関係者に限らず、調査、研究、学習のために図書館資料を利用される場合は、どなたでも利用していただけることを御存知でしょうか。簡単な手続きで利用できますので、ぜひ来館していただき、所蔵する豊富な資料に触れてみてください。



旧制松江高等学校時代からの資料・蔵書をそのまま引き継ぎ、今も大切に保管されています。



リユース本

秋には、重複等で不用となった書籍類を販売する「図書館蔵書リユース市」を開催します。これまで5回おこなわれたリユース市も大好評でした。



昔の教科書

書庫8階には、江戸時代から現代まで使われてきたさまざまな教科書約2万点が保管されています。



和綴本

書庫4階には、江戸時代からの貴重な和綴本も多数保管されています。



島根大学附属図書館
資料利用担当
小豆澤悦子

気軽に利用してもらえる 図書館づくりを目指します

図書館は、これまで多くの市民の皆様にご利用いただいておりますが、大学内にあるということで、敷居の高いイメージを抱いておられる方も多いようです。私たちはそのイメージを無くすため、重複図書のリユース市などを通じて、身近で地域に開かれた図書館をアピールしていきたいと思っています。特に近年は、学外の方も身分証があれば即日図書が借りられるなど手続きを迅速、簡略化したので、年々利用者数も増えています。この広報をきっかけに、より多くの皆様にご利用いただけたらと思います。

開館時間

	授業期間	休業期間
月～金	8:30～21:30	9:00～17:00
土・日曜、休日	10:00～17:30	休館

【休館日】休業期間の土曜・日曜、祝日、年末年始、偶数月の第4水曜日、特別整理期間(3月下旬)

【利用申込み】●入館手続 / 当日のみ、または短期間の利用の方は、カウンターへお越しください。●図書利用申込書にご記入ください。この場合は、貸出を受けることはできません。●図書利用証の発行 / 一年を通して継続して利用する場合は「図書利用証」を発行します。図書利用証の発行を受けると、貸出を受けることができます。ただし、自身で貸出・返却に来館できる社会人の方に限り、遠距離の方には発行していません。登録手続きにあたっては現住所を確認できるもの(運転免許証・パスポート等)をお持ちください。「図書利用証」の発行申込みは、開館時間中いつでも受け付けます。申込当日から貸出を受けることができます。

【利用の範囲】●閲覧 / 開架閲覧室の資料は自由に閲覧できます。書庫内の資料を利用したいときは、次の時間帯にカウンターへお申しください。(月曜日～金曜日: 9時～12時、13時～17時) ●貸出 / 図書は、3冊(2週間)まで借りることができます。カウンター前の自動貸出装置、または、カウンターで貸出手続きを受けてください。

お問い合わせ先 ▶ 島根大学附属図書館 TEL0852-32-6086 E-mail sabisu@lib.shimane-u.ac.jp

注目
されています



発光ダイオード(LED)の人工光を使った環境制御室の様子。養液栽培、植物工場だからできる野菜生産に取り組むための基礎的な研究や実証がこの施設内で実施されます。

この新しい植物工場の研究テーマとなる「人工光によるワサビ生産システム確立に関わる基礎技術の研究開発」に取り組まれるきっかけを「長年、野菜・花の養液栽培を研究してきましたが、その中で取り組んでいた、植物がおこす自家中毒（植物の根から化学物質が出て、その蓄積によって根からの養水分吸収阻害を受けること）と、その回避法という研究課題と成果が、この植物工場での培養液を循環利用する培養栽培システムで活かせると考えられたからです」と浅尾教授。

ワサビが選ばれたのは、県の特産品であることに加え、生産物として付加価値があり、産業として期待できる面もあります。

また、今回の植物工場は、35年前に整備された、本庄総合農場「システム化温室（コンピューター農場）」の後継として、さらなる技術的成果を生み出すものとして期待されています。

研究テーマは大きく分けて3つ。1) 無菌培養の培地・培養条件の検討（良質な無菌苗生産の検討）、2) ワサビ生産環境（光、温度、養分など）の検討（自家中毒防止方法の検討）、3) 太陽光発電、地中熱利用型ヒートポンプ利用があります。

養液栽培がおこなわれる環境制御室は5つ。発光ダイオード（LED）、HEFL（ハイブリット電極蛍光管※液晶テレビのバックライトを改良したもの）、蛍光灯の3種類の人工光、培養液や地熱利用の室温など細かく制御管理し、比較研究をおこなっていきます。

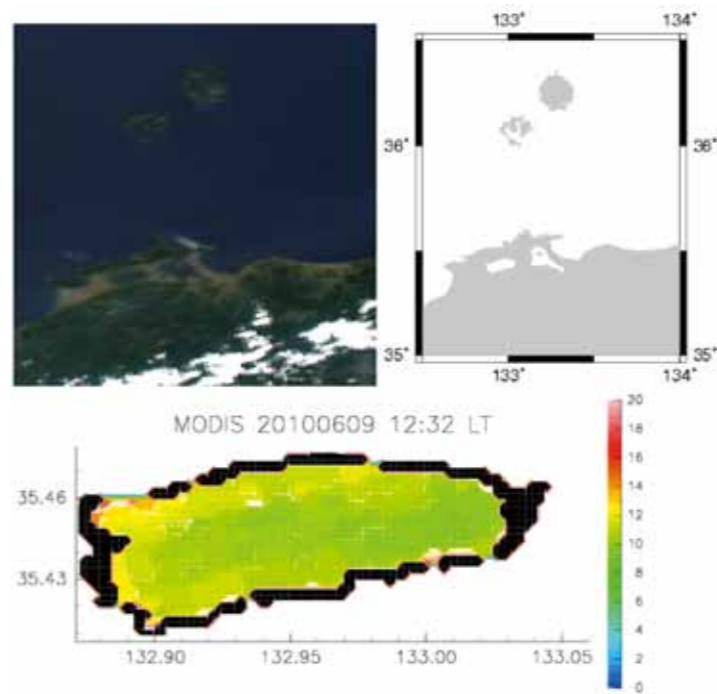
浅尾教授は、「地域の中小企業が「植物工場」に取り組まれる際の一助になるような存在でありたい。そして、島根の特産であるワサビや薬用ニンジンなどを栽培作目とする「島根の植物工場」を作り上げていきたい」とおっしゃいます。また、養液栽培の植物工場だからできる野菜生産など、地域の新しい農業発展に貢献していく考えです。



島根大学本庄総合農場内の「植物工場支援・研究施設」の外観。施設は「太陽光発電」や「地中熱利用型ヒートポンプ空調」が活用され、CO₂削減など環境にも配慮した施設となっています。

注目されています

注目
されています



観測機器(MODIS)を用いて推定された、今年の6月9日の宍道湖の濁り具合分布図。図の右側にあるカラーバーは濁度の値(mg/l)を示す。青から赤になるにつれて汚濁している事を示しています。

アメリカが打ち上げた人工衛星(Terra, Aqua)に搭載されリモートセンサー(MODIS)を用いた汽水域の環境モニター研究に取り組む古津教授のチームから下舞豊志助教に研究のあらしをお聞かせしました。

「汽水域の環境悪化が懸念される現状を広く把握したいが、現場観測では限界があるため、人工衛星に搭載されリモートセンサー技術を活用したモニタリングへの取り組みが始まりました。本研究では、過去の観測データを元に、表層(宍道湖、中海)の濁り具合を推定し、観測翌日にインターネット上でデータを公開しています」。(下舞助教)

平成20年6月からデータ収集をスタート。天候状況の認識等、難しい課題に試行錯誤を繰り返し、本年2月にはそれまでの収集したデータ(数値)をそのまま図式していたような表示から、現在インターネットに公開されているような、誰が見ても分かる表示が可能になりました。

公開されているインターネットのシステム構築を担当されている下舞助教は、「MODISの観測データの良いところは、比較的高解像度という利点がありながら、3週間に1度しかデータの得られない日本の人工衛星(だいち)に比べ、毎日1~2回の観測が可能と、環境をモニタリングするために重要な性能があります。この素早いデータ配信に着目して、こうした図式のシステムに応用しやすいことから、システム作りにはまつもどゆきひろ氏が開発したオープンソースのコンピューター言語「Ruby」を採用しています」とのことです。

別表でもわかるとおり、収集した数値を図表化することに始まり、宍道湖や中海の写真上に濁りを赤として分かりやすく表示するまでに進んだ取り組みですが、「これからも何らかの情報を地域に提供していきたい」と下舞助教。

さらにデータの精度を高めていくことを当面の課題として、いずれは水産資源保全や漁業貢献などを実現させていきたいそうです。



毎日変化する宍道湖の様子は、<http://rslab.riko.shimane-u.ac.jp/MODIS/>に公開されています。これから、この技術の精度をより高め、地域の方々に活用してもらうための取り組みが始まります。ぜひ一度ご覧ください。

注目されています

人工衛星による宍道湖・中海の環境モニタリングで、地域貢献活動に

汽水域(宍道湖・中海)の濁り具合を人工衛星で観察。総合理工学部の古津年章教授、下舞豊志助教を中心に人工衛星に搭載されたリモートセンシング技術を用いた環境モニタリングが始まっています。



総合理工学部(電子制御システム工学科)助教

下舞 豊志

平成12年度に島根大学へ着任後、大型研究プロジェクトに参加して、インドネシアに降雨観測の研究拠点を構築し、降雨と大気に関する研究を継続して行う。一方、古津教授の取り組み始めた環境モニタリングの研究にも参加し、環境モニタリングと大気の研究の両方を2つの柱として継続している。

学舎の今昔を歩いて探訪 誰でも体験できる大学見学

1921年(大正10年)、現在の場所に建造された島根大学(松江キャンパス)。
縄文文化の眠る土地でもあるキャンパス内をその歴史とともに見て歩く「島根大学キャンパスツアー」をご紹介します。



島根大学正門

ツアーは大学正門前から。銘板にも刻まれているとおり、旧制松江高等学校時代から受け継がれる門柱は国の登録有形文化財にも登録されています。



反対側からは大学内も一望できます。

総合理工学部3号館

学外からもその高さで一際目立つ総合理工学部3号館の11階展望コーナーからの眺めを堪能してください。展望コーナー正面からは松江城も望めます。1階フロアには総合理工学部の研究紹介コーナーもあります。



古代出雲文化資料調査室

法文学部考古学研究室所蔵の資料(一部)が展示されています。旧制松江高等学校時代から保管されているものもあり、その膨大な所蔵品の中には、日本の考古学上、たいへん貴重な資料も多く含まれています。



汽水域研究センター 「山陰地域・汽水域資料展示室」

山陰地域、汽水域に関連するさまざまな資料が展示されています。もう絶滅してしまった隠岐馬の骨格標本やニホンアシカの剥製、学生が再現したパレオパドキシア(写真手前)など貴重なものがたくさんあります。

数々の資料で歴史の深さを知ってください。

島根大学ミュージアム 准教授 **会下 和宏**

1時間~1時間半のツアー内容で、主に受験生やその父兄、卒業生などの利用が多く、受験生などは大学を知る手がかりに役立っているようです。縄文時代、この場所が宍道湖のほとりだったこともあり、たくさんの歴史資料が発掘展示されているのが特徴です。これからもたくさんの人々に、大学の所蔵する歴史に触れていただきたいですね。



島根大学ミュージアム本館

平成18年に開設された島根大学ミュージアムでは、縄文土器、石器をはじめ、縄文時代の丸木舟やカイなど、主に学内から出土した貴重な資料を見ることができます。縄文文化の眠るこの地の歴史に触れてください。



附属図書館本館

ツアーの最後は大学附属の図書館へ。一般の蔵書はもちろん、古文書、絵図などの膨大な歴史的蔵書があります。(入口付近にその一部が展示)2階では図書館資料を使ったミニ展示コーナーも設置されています。

島根大学キャンパスツアーの概要

実施日時/月~金・午前9時~午後4時
集合場所/松江キャンパス正門守衛室前
料金/無料
対象/学内外の皆様、どなたでもご参加いただけます。
申し込み方法/E-mailまたはお電話でお申し込みください。
島根大学ミュージアム TEL:0852-32-6496
E-mail museum@riko.shimane-u.ac.jp

注目 されています

地域を対象にした糖尿病予防研究で 地域健康サービス事業の創出を

これまで欧米人中心だった糖尿病の研究を日本、モンゴルなどで実施。その結果を予防、疾病管理に反映させる地域医療への新しい取り組み「糖尿病予防のための地域健康サービス事業」を雲南市で行いました。

塩飽邦憲教授が、地域に限定した糖尿病の予防研究を着想したのは、ご自身の産業医としての経験が大きかったようです。

「産業医当時、日本人は欧米人に比べ太っているわけでもないのに、平成11年頃から糖尿病が増え始めていることに気づいたんです。そこで、欧米人中心だった調査を見直し、日本人だけの傾向を調べ、原因を探ることにしました」(塩飽教授)。

まずはアジア人の傾向をみるため、広くアジア地域から調査をスタート(※この調査は現在も続行中)。結果として日本人には、肥満者に多い「インスリン抵抗型」と非肥満者の「インスリン分泌不全」の大きく分けた2つの傾向があることがわかりました。

これを受けて、「島根大学疾病予知予防研究拠点」を結成。ただちに雲南市など(※注1)(5千人)対象のコホート調査(長期間の追跡調査)を開始しました。

この調査は、病気要因の項目をあらかじめ選定、病気を起こした集団と起こさなかった集団それぞれを振り返り、どの要因が影響したのかを調べるものです。この調査によって、島根県という狭い範囲の中でも有病率に地域差があることがわかりました。この結果を反映させ、昨年9月より行ったのが、産官学協同による雲南市での「糖尿病予防のための地域健康サービス事業」です。

医師、栄養士、保健師などの問診、血液検査を実施。また、参加者には活動量計(歩数等の計測器具)、体重計、血圧計を貸し出し、「自己管理シート」の記録を指導しました。さらに、地域健康コミュニティ「健康ひろば」を市内8箇所に設置。これも、住民が気軽に参加できるよう、フィットネス、医療、商業(商店・商店街)という産官学協同という特性を活かしたものとしました。

今後は地図情報として、運動施設へのアクセス距離を運動量と連動させるサービスや、専用ICカードの発行など、住民が自発的に参加できるための取り組みも計画されています。

(注1)雲南市、出雲市佐田町、隠岐の島町、邑南町の健康維持対策が必要な少子高齢化の進む中山間地帯を対象としています。

健康ひろばコミュニティ

市内コミュニティセンター、健康増進施設への無線LAN環境の整備(新規)

健康増進施設	体育館
スーパー	管理栄養士
健康運動指導士	温水プール

「健康ひろば」設置場所にまめなか支援システムにアクセスするための無線LAN環境、及び巡回者に無線LAN対応端末を配備する。

インターネット

まめなか支援システム(既存)

データセンター

まめなか支援システムの非接触型ICカード認証対応(新規)

現在のまめなか支援システムは「セキュリティUSB」による認証を行っているが、非接触型ICカードによる個人認証機能を付加する。

保健福祉コミュニティ

コミュニティセンター

行政機関	保健師
生活習慣病予防教室	

市内CATV網(既存)

医療コミュニティ

かかりつけ医 地域医療拠点病院

生活習慣病患者の栄養・運動処方

「糖尿病予防のための地域健康サービス事業」を元にした事業の発展イメージ。ICTを活用したネットワークで、地域医療拠点病院とかかりつけ医、在宅の管理栄養士などの連携により健康づくり支援体制を構築。



医学部(環境保健医学講座)教授

塩飽 邦憲

鳥取大学医学部卒業後、愛媛大学、愛知医科大学などを経て2005年より島根大学医学部教授(環境保健医学講座)に就任。島根県医師会産業医部会運営委員、身体教育医学研究所うなん運営委員などを歴任し、地域や企業との連携を活かした予防医学の研究に取り組む。



ハンドボール部

自分たちで作り出す練習環境で
成績も順調にステップアップ!!

4月19日から同月23日まで香川県高松市でおこなわれた「平成22年度中四国学生ハンドボール春季リーグ戦・第一部」で2位という好成績をおさめた「島根大学ハンドボール部」。

現在、部員20名(選手16名、マネージャー4名)のハンドボール部は、中四国リーグの中で、唯一、指導者(監督)が不在のチーム。練習メニューの作成やスケジュールリング、試合の作戦まで、自分たちですべてこなさなければ

ならないという状況を乗り越え、昨年の春季リーグ戦では三部1位、二部に昇格した秋季リーグ戦でも二部1位と、成績も急上昇中。上向き成績とともに、チームの士気も増々あがっています。

「徹底した自己管理の成果でもありますが、中四国リーグの得点王でベストセブンにも選出された、渡辺勇志(2年生)選手をはじめ、選手ひとりひとりがお互い刺激を受けあつて、良い結果につながっていると思います。この好成績をうけて、ぜひとも経験のある人にも入って欲しい。」(篠原慈学(キャプテン・3年生))

目前に控えた大会に、練習にも熱が入るハンドボール部。目下、西日本インカレ予選リーグを突破することが目標です。

彼らの今後の活躍に大きな注目と期待が集まっています。



自分達で全てを行うことによってチームに一体感が生まれているハンドボール部。練習中にもお互い声をかけ合つて、チームワークの良さを感じました。



医学部バドミントン部

結束力がクラブの魅力
のびのび楽しい活動が信条



バドミントンは風でシャトルが影響を受けるため、暑くても窓や入り口を完全に閉め切った状態で行います。まさに熱気のこもった練習が行われていました。

幸田選手はシングルスで3位と好成績をマークしています。

大きな大会で常に上位入賞する実力のエース幸田選手をはじめ、516名という経験者が、大学から競技を始めた残りのメンバーを牽引しているバドミントン部現在、部員42名という大所帯をマネージャーなしで運営しているのも、チームワークのあらわれ。週3回の合同練習と1回の自主トレに気持ちのよい汗を流しています。

取材日がキャプテン初日という記念すべき日だった、郡司晃太郎キャプテン(3年生)。「医学生ということで、テスト等、いろいろ大変な面もありますが、真剣に打ち込みたい人と、勉強の気分展開に楽しみたい人がそれぞれ共存し、両立する楽しいクラブづくりを目指していきたいですね」とこれからの抱負を語ってもらいました。

旧島根医科大学時代の第二期生が創部したという、医学部スポーツサークルの中でも歴史のあるバドミントン部を紹介します。医学部ならではの多忙なカリキュラムで学業に動かしみながら、中国、中四国、西日本、コメディカルという大きな大会(いずれも大学の医学系学部・学科のみの大会)の他、対抗試合なども精力的にこなし、今年4月におこなわれた中国大会では、幸田(6年生)・野々村(5年生)組がダブルスで2位。さらに



陸上部

長距離とリレーで好成績
さらなる戦力アップが課題

現在、部員はマネージャーを含め約50名の「島根大学陸上部」。合同練習が週5回、各自のトレーニングが2日と、忙しい学生生活のなか、真剣に競技に取り組んでいます。

なかでも三賀森智哉キャプテンは、中四国インカレ1万メートルにおいて、昨年と今年の2年連続1位。また中四国の個人戦でも昨年1位と成績でも陸上部を牽引しています。

「勉強やアルバイトで練習も不規則になりがちなので、やれるときに徹底的に追い込んだ練習法をとっています。あとはやっぱり自己管理の徹底でしょうか(三賀森キャプテン)。現在は9月の日本インカレに向けて調整中で、全国の強豪相手に少しでも自分の能力を引き出したいと燃えています。

また、4年生の下大輔選手をリレーとすするリレーチーム(下、菅本、大杉、嘉和地)は今年の中四国インカレ3位をマーク。また下、菅本両選手は昨年度の中四国インカレで10年ぶりの1位に輝いた時のメンバーでもあります。4年生の下選手にとっては、就職活動と並行しての厳しい状況で今年度3位になったことも、大きかったよう



忙しい日々でも、工夫して練習に励む陸上部のメンバー。リレーメンバーにとっては、卒業生が引退した後の戦力補強が目下の課題のようです。

です。



ボランティアサークルはらっぱ

子ども好きがたくさん
精力的に活動しています!

「ボランティアサークルはらっぱ」は、その名のとおり、精力的にボランティア活動をおこなっているサークルです。

毎週水曜日(月4回)におこなっている、市内幼稚園での定期活動と、学内外から声のかかる、イベントサポートなどの不定期活動が主な活躍の場所。

「定期活動の幼稚園ボランティアは、親御さんが迎えに来るまで子どもたちの相手をするというもの。この活動がメインとなるので、わがサークルには子ども好きがいっぱいいるんですよ」と臼井総部長(2年生)。

20年以上の歴史をもつ「はらっぱ」ですが、現在約40名が籍を置き、幼稚園ボランティアでは約10名、イベントサポートなどでは必要に応じた人数が参加しています。

不定期活動では、オープンキャンパスのスタッフ等、学校側から要請するものや、今年5月に松江市殿町のカラコ工房でおこなわれた「第2回まちなか大学祭」にて、子どもたちと一緒に鯉のぼりに励んだりの記憶も新しいところ。子どもにちなんだ活動が多い「はらっぱ」ですが、「子どもイベントだけでなく、祭りの設営等、要望があればどこでもうかがいます」とのことでした。



様々な学部のメンバーが集まる「はらっぱ」ですが、現在の幼稚園ボランティアを定期活動とする形になったのは、約10年前とのこと。



医学部写真部

写真を自由に楽しむため
共有できる場所の提供を

十数年途絶えていた医学部の写真部でしたが、現在の活動が始まったのは3年前。女性向けカメラ雑誌等の影響もあり、部員50名のうち約半数が女性というクラブです。

創部3年でもあり「活動はまだ試行錯誤中」と話すのは、部長の生田奈央さん(4年生)と副部長の長岡智子さん(4年生)。現在、参加2年目という山陰3大学(島大、島根県立大、鳥大)による合同展をはじめ、市内の飲食店を借りた写真展など、様々な場所で作品を発表中です。なかでも、医学部附属病院で年4回おこなう病院展示では、山陰の季節をテーマにした作品を並べ、患者さんたちの目を和ませています。

有志による少人数の撮影会をおこなっているほか、大半の部員が手軽に扱えるデジタルカメラを使用していることもあり、日常の何気ないスナップを中心に、本格的な風景写真など作品に取り組みスタイルもさまざま。「それぞれの感性で自由に活動してもらいたい。写真部はそんな部員たちが共有できるものとして参加するものを楽しめる活動をしていきたい」と生田部長。



被写体やカメラを向ける対象や興味もさまざまなメンバー。それにより幅広い作品形成や撮影活動につながっているようです。

今後はテーマを決めた展示会や、連作(組写真)などの課題にも挑戦していきたいそうです。

島根大学支援基金 寄附者一覧

ご協力ありがとうございました。
(平成22年7月末現在)

平成22年4月からは第2期中期目標・中期計画が始まり、大学を取り巻く財政事情は厳しい状況が続いております。このような状況の中で、「学生満足度の向上」にむけ、学生に対する修学支援を一層充実させるため、引き続き島根大学支援基金を募集いたしますので、この趣旨に深いご理解を賜り、ご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。ここでは、ご寄附をいただいた皆様への謝意としてお名前を掲載させていただいております。

■個人からのご寄附 (50音順・敬称略)

相崎 守弘	後藤 正志	辻中 康幸
青木 教泰	坂本 一男	壺井 哲朗
新井 隆	高野 明奈	鶴原 敬之
飯野 修二	武上 紀江	西村 泰一
伊東 誠	武田美和子	橋元 幸一
今岡 輝男	竹永 三男	藤田 周平
小武 道雄	田中 英二	藤原 敬
加藤 文夫	田中 涼	宗盛 修
加藤 正人	棚田 晃典	山崎 征爾
北垣 渉	田原 光夫	
呉 宇星	千秋トシ子	

※ご寄附をいただいた皆様の中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

島根大学支援基金寄附者一覧

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々の相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽ににお寄せください。ご投稿お待ちしております。

〒690-8504 松江市西川津町 1060
島根大学総務部総務課 企画・法規・広報グループあて
FAX: 0852-32-6019
E-mail: jisy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>



ご意見を頂いた皆様の中から
抽選で10名様に
島大農場で収穫された柚子を使った
オリジナル「柚子ジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。
※応募が切/平成22年11月15日必着

編集後記

いまだ暑さが残ります今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。お子様をお持ちのご家庭では、ようやく学校が始まり、ホッとしながらも少し淋しい頃でしょうか。
さて、島根大学では、実はまだ夏休み中です。大学生は9月末まで夏休みですから、小・中・高校生の皆さんに比べると1カ月長いのです。いいな〜という声が聞こえてきそうですが…この夏休みが勝負時！です。この長い夏休みに、インターンシップ(就業体験制度)に勤しみ将来の就業イメージを確立する3年生、卒業論文に苦む4年生、そして、勉強できる今のうちに！と集中講義や日頃出来なかった勉強に打ち込む1、2年生…経済状況の悪化でアルバイトも減らしにくい学生さん達は大忙しです。そしてもう一つ、10月に開催される大学祭に向けての準備もあります。1、2年生が中心となったの大学祭、去年インフルエンザの影響で中止になっただけに、今年は力が入っています。「地域に根ざした大学」を目指す本学として、地域の皆様と交流できる絶好の機会でもあります。皆様のお越しをお待ちしております。
※浴風祭: 10/8-11(松江キャンパス)
※くえびご祭: 10/16-17(出雲キャンパス)
それでは、次号の「広報しまだい」をお楽しみに！

企業みなさまへ

「広報しまだい」に広告を掲載してみませんか!
ご希望される場合は、総務部総務課企画・法規・広報グループ(電話 0852-32-6603)までお尋ねください。
みなさまのご応募お待ちしております。



島根大学オリジナル芋焼酎 神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」
●神在(かみあり)の里(720ml)…1500円(税込)
●島根大学生協でしか販売しておりません。

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6240
<http://omise.seikyoku.jp/shimane>

色々なメリットでお届けしています

- 新聞折込(チラシ) ●店舗設置(冊子)
- 基本!毎週月曜更新! ●インターネット
- http://job.merit-inc.net

求人情報 MERIT 求人事業部 松江市古志原 5-2-43 TEL.0852-23-1749

同窓会連合会から

第4回ホームカミングデー(同窓会連合会・島根大学共催事業) 歓迎式典及び特別講演開催のご案内

10月9日(土)に「第4回島根大学ホームカミングデー」in松江キャンパスを開催します。このイベントは、卒業生の皆様に現在の島根大学の様子や教育・研究等の活動状況を理解していただくとともに、同窓生同士、または在学生との交流の機会として、もう一つに始まったものです。当日は、歓迎式典での学長や同窓会連合会長の挨拶に始まり、ソプラノ歌手狩野麻実さんによる演奏会、特別講演として歌手の浜田真理子さんによる「音楽と仕事とわ

たくしごと」と題した講演をしていただきます。あわせて、各学部・同窓会主催事業も行われます。また希望者には、歓迎式典開催前に「キャンパスツアー」(※P19参照)に参加していただき、島根大学の歴史などを再発見していただく機会も設けています。
1年に1度卒業生の皆様が、思い出の母校にお帰りいただけるイベントとなっておりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

島根大学 ホームカミングデー 第4回
in松江キャンパス
平成22年10/9(土) 12:00~受付開始
会場: 松江キャンパス 大学ホール
キャンパスツアー 12:00~13:00
特別講演 14:30~15:30
演題「音楽と仕事とわたくしごと」
講師 浜田真理子
各学部・同窓会主催事業

SUSANOO SHIMANE magic

島根大学は島根スサノオマジックを応援しています!

いよいよbjリーグ2010-2011シーズンに突入しました。そして当大学も応援する島根スサノオマジックも5月にはチームを指揮するヘッドコーチ、6月には創設メンバーとなる4選手がドラフトで指名されました。そこで、今回はジェリコ・バプリセビッチヘッドコーチと4名の創設メンバーを紹介します。

島根スサノオマジック「創設メンバー」紹介

ヘッドコーチ ジェリコ・バプリセビッチ(クロアチア) 2006年夏、日本で開催された世界選手権に伴い、2003年日本バスケットボール協会が世界中のヘッドコーチの中から、男子日本代表ヘッドコーチに白羽の矢を立てた、名將中の名將。2003年から約4年間、男子日本代表の指揮をとり日本のバスケットを盛り上げた実績にさらにヨーロッパ各国で数々のチームを優勝に導いた実績が重なり、島根にどのようなジェリコ「マジック」をもたらすのか早くも島根のバスファンのみならず、全国のバス関係者からも注目を浴びています。	仲西 翔自 鳥取県出身(190cm / 88kg) bjリーグ新人ドラフト指名選手 bjリーグ東京アパッチにて4年間プレーしてからの山陰凱旋。唯一のbj経験者ということもありチームリーダーとして期待。	横尾 達泰 愛知県出身(186cm / 80kg) bjリーグ新人ドラフト1巡目1位指名選手 2010-2011 bjリーグ新人ドラフトの栄えある全体の1位指名選手。類まれなシュートセンスでスサノオマジックのポイントゲッターへ。	曳野 康久 鳥取県出身(187cm / 75kg) bjリーグ育成ドラフト1巡目1位指名選手 大学を卒業後、松江で社会人生活をしながらプロ選手への夢を掴んだ熱いハードに、スサノオマジック唯一の島根県ふるさと選手へは期待は膨らむばかり。	山本 エドワード 鳥取県出身(173cm / 63kg) bjリーグ育成ドラフト2巡目7位指名選手 中学校までは米子で過ごし、高校からは単身バスケットの名門・北陸高(福井)→大東文化大学と選り抜いたエリート選手。高いポテンシャルと負けず嫌いな性格はスサノオマジックの元気に。
---	--	--	---	---

8月11日、12日にはチームトライアウト(チーム独自の入団試験)を行い数名の選手を、そして9月には外国人選手が合流の予定*です。今後のスサノオマジックの動きに大注目です。
*記事制作の7月末時点

島根スサノオマジック TEL.0852-60-1866 <http://www.susanoo-m.com/>

同窓会連合会から/スサノオマジック